

島根県生協連ニュース

No.33 2019年1月発行

島根県生活協同組合連合会

〒690-0017 松江市西津田1丁目10-40 (生協しまね内)

TEL 0852-27-6284 FAX 0852-27-5742

ホームページ <http://shimane.kenren-coop.jp>

新年のご挨拶

島根県生活協同組合連合会 会長理事 矢倉 淳



あけましておめでとうございます。

昨年は、年明けの雪害、4月の島根西部地震、7月に西日本豪雨、さらに台風21号と、自然災害が頻発し減災・防災を誰もが考えていく必要を感じさせられる年となりました。

被災された方が早期に復興されることを祈るとともに、亡くなられた方に改めて哀悼の誠を捧げます。

県生協連でも、島根県内はもとより、被害の大きかった広島の被災地へのボランティアに取り組みしました。また、会員生協では、組合員への安否確認、災害ボランティアセンターへ参加、物資支援を行ってきました。まさに、災害は、どこに暮らしていても起こり得ること、生協が、災害支援でも地域の連携の一翼として役割発揮をすることが、安心して暮らせる地域づくりにつながることを実感しました。

防災だけでなく、食の安心、健康、環境など、一人ひとりの暮らしに関わる諸問題や少子高齢化、人口減少、若年層の貧困など地域で考えていく課題は山積しています。今、地球規模で持続可能な社会づくりを目指すSDGsの達成に向けて全世界での取り組みも求められています。私たちも出来るところから取り組んでいかなければなりません。

昨年は、会員生協、地域の諸団体が連携し、フードバンクの取り組みがスタートするなど、課題解決に向けて一步一步前進している事への実感がありました。改めて、本年も、各生協が組合員と役職員が一体となって、持続可能な社会のため尽力されることを期待いたします。

今年一年が組合員の皆さんにとって、幸多き年であることと、自然災害が無いことを願い、新年の御挨拶と致します。

広島災害ボランティア報告



9月15日(土) 会員生協で参加を募り、災害ボランティアバスを運行しました。ボランティアは呉市呉災害ボランティアセンター天応サテライトで行いました。

ボランティア初心者10名参加しましたが、災害ボランティア活動経験豊富な出雲総合ボランティアセンターから1名派遣頂き、現地で広島県生協連の方にフォローして頂きながら、総勢21名での活動となりました。

活動場所は道幅が狭く人力がまだまだ必要な地域。2グループに分かれ、雑巾等で手作業での床下の泥落とし、家屋の裏畑に堆積した土砂を土嚢につめて取り除く作業をしました。

参加者感想より

- ◆オリエンテーションで「作業中でも被災者の方々とコミュニケーションは重要です。作業を止めてでも会話をしましょう!」と言う言葉が私にはとても印象的でした。私は、家主の奥さんに当時の様子を窺うことができました。「川は竜のように流れてきた。橋の手すりも瓦礫の勢いも重なりなぎ倒し、水は前庭の紫陽花や花壇、灯籠でさえも流していった。唯一、17年前に新築した時に植えたこの大きな桜の木だけが残ったんよ!」「春には満開となり主人と花見もするし、ご近所の方々も集まって花見をするし、若い方々はたくさんお酒を呑まれますよ…」と、笑顔を浮かべて語ってくれ、頷くばかりでした。被災された方とコミュニケーションができたことで、どこか心がホッとした自分がいました。地震や水害など災害が多発するなか、教訓を生かし備えるしくみと枠組みを超えた連携機能の重要性を改めて痛感しました。また、物的支援だけではなく、被災された方々の心の復興の大切さを気丈に笑顔で語られ、気付かせて頂きました。常に「寄り添い合える社会」をどう創って行くかなど、希薄な現代社会のなかに生協として決して目を背けてはならないと感じました。
- ◆今回、呉市が自分の地元だということ、ニュース等のメディアからの情報だけでなく実際に現場に行くことで、被災地の現状やメディアでは伝えられない現地の声を知りたいと思い参加しました。当日は天候が悪く、雨が降っていたこともあり、十分な活動ができたとは思えませんでした。私が作業した住民の方の話が聞け、目標が達成できたのかなと思いました。また、今回達成できなかった地元への恩返しも今後できればなと思いました。

安井専務理事が「厚生労働大臣表彰」

10月30日（火）、厚生労働省において、消費生活協同組合(連合会)等に対する厚生労働大臣表彰式が執り行われました。

この表彰は、消費生活協同組合法の理念に則って、永年にわたり健全な事業運営を行い、他の模範と認められる消費生活協同組合及び消費生活協同組合連合会並びに組合(連合会)役員で、顕著な功績があった者に対し、その功績をたたえるため、5年に1度、厚生労働大臣による表彰が行われます。

今年は、個人表彰として、安井光夫・島根県生協連専務理事・生活協同組合しまね理事長が表彰を受けられました。

全国で受賞を受けられた団体は30組合で、個人での受賞は40人の方々が受賞されました。

島根県では、2013年の鎌田前会長理事が受賞されており、今年は島根県からは1名の受賞となりました。



祝賀会の開催 について

受賞を記念し下記の通り
祝賀会を開催致します。

日程：2019年1月30日（水）

午後5時

会場：エクセル東急

ピースアクション2018(平和の取り組み)

☆ピースリレー(平和行進・日本海コース) 京都⇒鳥取⇒島根へ

7月21日（土）米子児童文化センターから出発し、米子市役所で折り返す鳥取西部行進が行われました。島根県からは24名、全体で60名での行進となりました。

35度を超す暑さの中、児童文化センターから市役所を折り返すコースで沿道の方へ平和をアピールしました。

市役所での米子市長からのメッセージ交換、平和の集いでのピースシンガーズのミニコンサート、島根大学学生委員会からの平和クイズ等、平和について大人も子供たちも考える機会となりました。

引継ぎでは、矢倉会長理事より、核兵器禁止条約やICANのノーベル平和賞受賞などで平和への道筋が前進したこと、今年は、災害の影響で7月28日に予定していた広島への引継ぎは中止となりましたが、行進で訴えた平和へ想いを、ヒロシマへ必ず伝えることを誓うとの挨拶がありました。



監事研修交流会



2018年8月23日（木）サンラポーむらくもにて、監事研修学習交流会を、日本生協連 法務部の岡坂氏を講師にお招きし開催しました。19名の参加

午前は学習講演「監事監査規則と監査報告書」、午後は参加者でグループにわかれ、意見交流会を実施しました。

参加者感想より

わからないことも多かったですが、特に交流会を通して、どうすればもっとわかりやすくできるのか、という発想に至ることができました。大学生協の特性上、どうしても入れ替わりが多く、大半が新米なので、よりわかりやすくする努力をするべきだと思いました。それに気付けたのが今日の1番の収穫です。

学習会「SDGsと生協の取り組み」



2018年6月25日（月）「SDGsと生協の取り組み」～エシカル消費と持続可能な社会～をテーマに、日本生活協同組合連合会サステナビリティ推進部 小野光司氏より講演をいただきました。

クイズ出題など「SDGs」についてわかりやすくお話しされ、もっと詳しく知りたいと思える講演でした。これからの会員生協での取り組み、自分自身が何ができるかを考える機会となりました。

参加者アンケートより

- ◆SDGs自体、何を意味しているのか分かりづらいものと思っていたが、生協での事業を含む取組と関連性があり、理解が進んだ。特に「持続可能性」や「サプライチェーン、バリューチェーン」等については、かんがえなければと思う。調達上の責任が生協にもあると思う。
- ◆SDGsは生協にとっても重要な取組・目標と感じました。原材料が環境にあたる影響、生産国によっては過酷な労働を強いられている現実から目をそらさないようにしないといけないと考えます。
- ◆SDGsについては、今日初めて詳しく学ぶ機会をいただいた。これからのよりよい持続可能な社会（世界）を維持していくためには、世界レベルで設定された目標の達成が必要となる。



第45回通常総会開催報告



2018年6月25日（月）通常総会が全代議員出席のもとで開催されました。（代議員定数16名中出席代議員16名本人出席16名）

議案採択結果 全議案が承認をされました。

- 第1号議案（活動報告、決算・剰余金処分）
- 第2号議案（方針、予算）
- 第3号議案（会員規約改定）
- 第4号議案（役員選任の件）
- 第5号議案（議案決議効力発生の件）

来賓には、島根県環境生活部環境総務課消費とくらしの安全室長 城市賢二様、日本生活協同組合連合会から、中四国地連事務局黒木勉様、サステナビリティ推進部小野光司様にご隣席頂き、城市様からは、消費者被害防止への広報協力への感謝とともに、県消費者団体ネットワーク化にむけて生協への期待をご挨拶いただきました。

また、今期役員改選で以下の方が就任され、総会後の第1回理事会で矢倉理事が会長に選出されました。

（鎌田前会長・安井専務・周藤新理事）

今総会をもって、勇退される鎌田会長理事よりご挨拶があり、理事会からの感謝状とともに新任の周藤理事から花束が贈呈されました。

矢倉 淳（会長理事：新任）	安井 光夫（専務理事：重任）
烏田 政己（理事 重任）	寺本 敏徳（理事 重任）
祖田 智幸（理事 重任）	吉田 亨（理事 重任）
栗山 保夫（理事 重任）	川本 悟（理事 重任）
周藤 紀恵（理事 新任）	長谷川 隆（監事 重任）
徳原 英樹（監事 重任）	

島根県西部地震 大田災害ボランティアセンターへ運営支援をおこないました。



4月18日(水) 災害ボランティアセンター運営支援に1名派遣しました。
当日は、ボランティア66名 新規個人17名、団体2グループ7名 継続個人6名、団体8グループ37名、ニーズ受付15件、実施・活動件数28件、のべ115人で、主な内容はブルーシート貼り、がれき処理でした。
発災後10日、運営の方がやっと交代で休みをとれる状況でしたが、感謝(ありがたい気持ちで)、笑顔(笑顔を忘れずに)、寄り添い(被災者に寄り添う)をスローガンに、献身的に対応されていました。

7月西日本豪雨災害 島根県へ義援金を贈呈しました。



2018年7月の豪雨災害に対して、日本生活協同組合連合会に全国59生協から寄せられた募金から「平成30年7月豪雨島根県災害義援金」に462万9,767円を贈呈致しました。

10月12日(金) 矢倉淳会長、日本生活協同組合連合会中四国地連 大同久人事務局長が、島根県共同募金会 若佐博之会長を訪問し、島根県の被害や復興状況について意見交換し、被災された方へ役立てて欲しいと目録が手渡されました。

協同組合連絡協議会学習会「協同組合の社会的役割と持続可能な未来の創造」を開催



2018年7月27日(金) 林業会館にて、講師に前田健喜氏(日本協同組合連携機構協同組合連携部長)をお招きして学習交流会を開催しました。

協同組合は、今日、世界で300万組合10億人以上が加入し、3億人の生活を支えている。日本でも6,500万人もの方が加入している。

【協同組合間連携の事例】

現在の連携事例について、島根の例もあわせて紹介し、どの協同組合も、基盤となる地域の地域活性化・人と人とのつながりづくり、居場所づくり、コミュニティづくりに向かっており、連携しやすい環境になってきていること。

【持続可能な社会に向けた協同組合の役割】

SDGsはこれまで協同組合が作ってきた事業を発展させるための分かり易い目標としてどう使うかを考えていくことが出来る。協同組合がなぜ、国連や政府からも期待される組織の一つになっているかは、行っている事業が「人の組織」として発展してきたからと推察される。

等の講演をしていただき、参加者で交流しました。



食料・農林漁業・環境を考える県民フォーラム 第13回学習会が開催されました。



8月9日(木)「島根県における和牛生産の現状と今後の方向～その課題と対策～」をテーマに、原正三島根県農林水産部畜産課長に基調報告していただき、パネリストに、和牛繁殖経営農家 厚朴邦広氏、農事組合法人中国牧場代表理事 町谷修二氏、JAしまね雲南地区本部長 加藤博樹氏をお招きし、ラピタウエディングパレスにて開催されました。

2019年1月以降の主な予定

- 1月12日(土)「日本国憲法を学ぼう!」学習会
会 場：くにびきメッセ 501号室
講 師：中村良光氏
- 1月26日(土) 食料・農林漁業・環境シンポジウム
テーマ：「広がる“子ども食堂”」
会 場：ラピタウエディングパレス寿輝の間
- 1月30日(水) 県生協連第5回理事会
県行政担当・県生協連合同会議
会 場：エクセル東急 みやびの間
- 2月 5日(火) 中四国生協運営委員会/県連活動推進会議
会 場：岡山オルガホール
- 3月13日(水) 県生協連第6回理事会
会 場：生協しまね